

魚津市空間デザイン指針

(概要版)

令和4年3月

魚津市

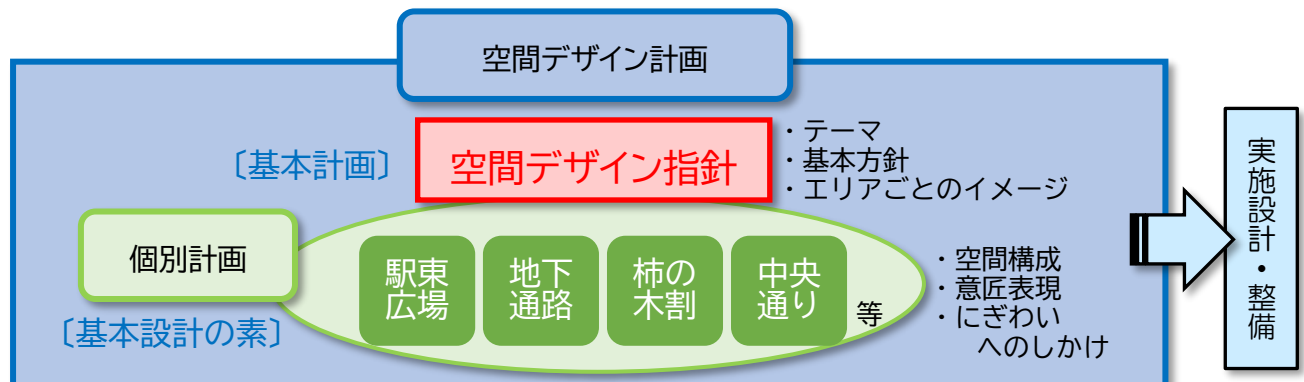


1. 空間デザイン指針の目的

魚津市では中心市街地における魅力的な都市空間の創出などに向けた取り組みを推進していますが、都市空間については、行政が整備・維持管理を行う道路・公園・河川等の公共空間と市民や事業者が建築物等を建築する民有地から構成されていることから、**良好な都市空間を創出するためには、市民・事業者・行政が連携してまちづくりを進めていくことが重要です。**

本指針は、魚津市が策定した「魚津市立地適正化計画」、「魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり基本構想」などを踏まえ、**コンパクトシティ・プラス・ネットワークを基本とした持続可能なまちづくりの実現や、中心市街地における賑わいのある魅力的なまちづくりを実現するため、具体的な整備イメージをもって都市空間デザインの統一を図るため、都市空間デザインの基本的な考え方と進め方を示すものです。**

2. 空間デザイン指針とは



空間デザイン指針と各都市施設の整備方針を示した個別計画を合わせて、空間デザイン計画と位置づけて、都市空間デザインの統一を図り、その後、これらに基づいた実施設計・整備を進めます。

空間デザイン指針は、整備に関する〔基本計画〕として位置付けます。

3. 空間デザインのテーマ

**中心市街地を活性化し、生活・交通の利便性を高く確保し、
未来を担う若者たちにつなげる魅力的なまちづくり**

人口構造が若返り、本市が躍動するために、「未来を担う若者たちに繋げるまちづくり」を方針とし、日常生活において「生活・交通の利便性が高いと感じることができるまちづくり」を目指します。

【大切にしたいまちなかの魅力的な都市環境】



魚津駅前からの眺め



柿の木割り



中央通り名店街



鴨川

4. 空間デザインの基本方針

① 魚津市の玄関口として相応しい駅・駅周辺の形成

魚津駅・新魚津駅周辺、電鉄魚津駅周辺において、市民や来訪者の多様な交流を創出する都市空間を形成します。

② 回遊性のあるまちの形成

地域の主要な場所をつなぐ安全・安心、快適な歩行空間を創出し、歩きたくなる都市空間を形成します。

③ 明るく開放的な交流空間の形成

飲食店街・商店街、公園など、地域の都市機能を活かし、多くの人が訪れる都市空間を形成します。

④ 魚津市を印象づける景観の形成

地域全体やエリアごとの景観特性に応じたデザインの統一性を図り、誰もが美しいと感じる都市空間を形成します。

地域から魚津市固有の自然景観（山、海など）を眺望できる都市空間を形成します。

⑤ 利便性の高い住環境の形成

市役所、学校教育施設、商業施設など、生活に必要な都市機能が身近に存在する利便性を感じながら、快適に暮らせる都市空間を形成します。

5. 空間を構成するエリア

空間デザイン指針の対象範囲としている、魚津市立地適正化計画における居住誘導区域内を4つのエリアに区分します。

賑わい交流空間エリア

魚津駅・新魚津駅を中心とし、商業・業務施設が集積し、魚津駅前には柿の木割り飲食店街が形成された賑わいと交流のある都市空間

歴史ふれあい空間エリア

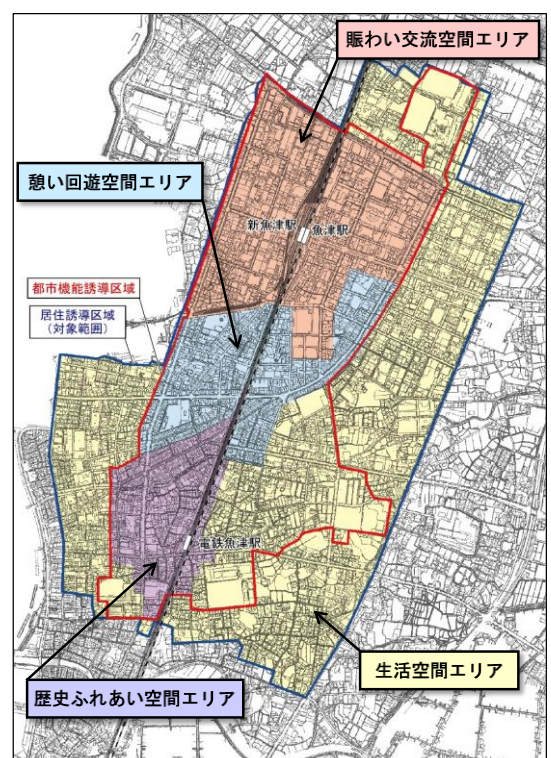
電鉄魚津駅を中心とし、魚津城跡、図書館などが位置するとともに、生活に密着した商店街が形成された歴史・文化や人との身近なふれあいを感じる都市空間

憩い回遊空間エリア

魚津駅・新魚津駅周辺と電鉄魚津駅周辺をつなぎ、両駅周辺の移り変わる景観などを楽しみながら回遊できる都市空間

生活空間エリア

中心市街地に位置する商業・教育・文化・行政などの都市施設、鉄道・バスなどの公共交通を身近に利用しながら、快適に暮らせる都市空間



6. 空間デザイン指針

1. 賑わい交流空間エリア

“魅力的で賑わいのあふれるまちの顔”

つくる

■統一性や連続性をつくる

- ▷「魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり基本構想」で示されたゾーンごとの統一性のあるデザイン、各ゾーンをつなぐ連続性のある歩行空間を創出
- ▷鉄道・駅の東西をつなぐ、安全・安心で連続性のある空間を創出

■賑わいをつくる

- ▷駅前広場や公園、お店・飲食店など、多くの人々が集い、賑わうことができる“たまり場”となる空間を創出
- ▷「柿の木割り飲食店街」や駅周辺において、街路灯の再整備や無電柱化、エリアに相応しいオブジェ設置の検討などにより、人々が魅力を感じるデザイン性の高い空間を創出
- ▷魚津駅・新魚津駅周辺に訪れ集まりやすい空間を創出

まもる

■眺望景観をまもる

- ▷魚津駅・新魚津駅周辺などから眺める山方向、海方向の眺望景観

■エリアの資源をまもる

- ▷エリアの資源であり、魚津の食文化を伝える「柿の木割り飲食店街」
- ▷市民などに親しみのある「公園」、「神社」などの公共公益施設を保全

そだてる

■エリアの資源をそだてる

- ▷エリアの資源である「魚津駅・新魚津駅」、「市役所」、「公園」などを空間のランドマークなどとして活用

■エリアの魅力やファンをそだてる

- ▷女性などが訪れやすい洗練されたデザイン空間に改善
- ▷歩行者だけでなく、自転車利用者などでも楽しみながら散策できる空間に改善
- ▷おいしい水や食、キャラクターなど、エリアの魅力を伝える観光情報の発信を積極的に行う

2. 歴史ふれあい空間エリア

“懐かしさを感じ、気持ち安らぐまちの顔”

つくる

■統一性や連続性をつくる

- ▷エリアや商店街ごとの統一性のあるデザイン、それぞれの商店街を回遊しながら楽しめる連続性のある歩行空間を創出
- ▷親しみや気持ち安らぐエリアとしてのデザイン性に優れた快適に暮らせる住空間を創出

■賑わいをつくる

- ▷多様な世代が交流し、賑わうことができるように、商店街の空き店舗や空き地、公園・広場などを活用した街並み空間を創出
- ▷エリアの賑わいを演出するストリートファニチャーやモニュメント設置の検討などにより、人々が懐かしさを感じながら楽しめるデザイン性の高い空間を創出

まもる

■歴史・文化をまもる

- ▷歴史のある寺社や祭り、路地などと調和した街並みを保全

■水辺空間をまもる

- ▷周辺の街並みと調和した鴨川の水辺空間を保全

そだてる

■エリアの資源をそだてる

- ▷エリアの資源である「電鉄魚津駅」、「市立図書館」及びその周辺などを空間のランドマークなどとして活用

■エリアの魅力やファンをそだてる

- ▷商店街や鴨川など、エリアの魅力を伝える観光情報の発信を積極的に行う

3. 憩い回遊空間エリア

“まちの顔となる駅周辺の拠点間をつなぎ、変化と調和を楽しむ”

つくる

■回遊性をつくる

▷ 2つの拠点間を歩いて回遊しても、拠点間を移動するバスの車窓からも楽しめるように、道路沿道における連続性のある街並みや歩行空間を創出

■空間の変化と調和をつくる

▷ 2つの拠点と隣接したエリアとして、商業地から住宅地などの街並みの変化と調和を楽しめる空間を創出

まもる

■水辺空間をまもる

▷ 周辺の街並みと調和した鴨川の水辺空間を保全

そだてる

■エリアの資源をそだてる

▷ エリアの資源である「村木公民館」などを空間のランドマークとして活用

4. 生活空間エリア

“コンパクトなまちの中で、便利で快適な生活を体感”

まもる

■快適な暮らし（住まい）をまもる

▷ 市民が快適に暮らし続けることができるように、住宅地などの環境や景観を保全

■安全で安心な空間をまもる

▷ 市民などが安全で安心に利用できるように、道路や公園などの公共空間を保全

■公共交通をまもる

▷ 鉄道・バス等の公共交通を市民の移動手段としてより身近に利用できるように、道路空間や利便性を保全

■歴史・文化をまもる

▷ 歴史のある寺社や祭りなどと調和した街並みを保全

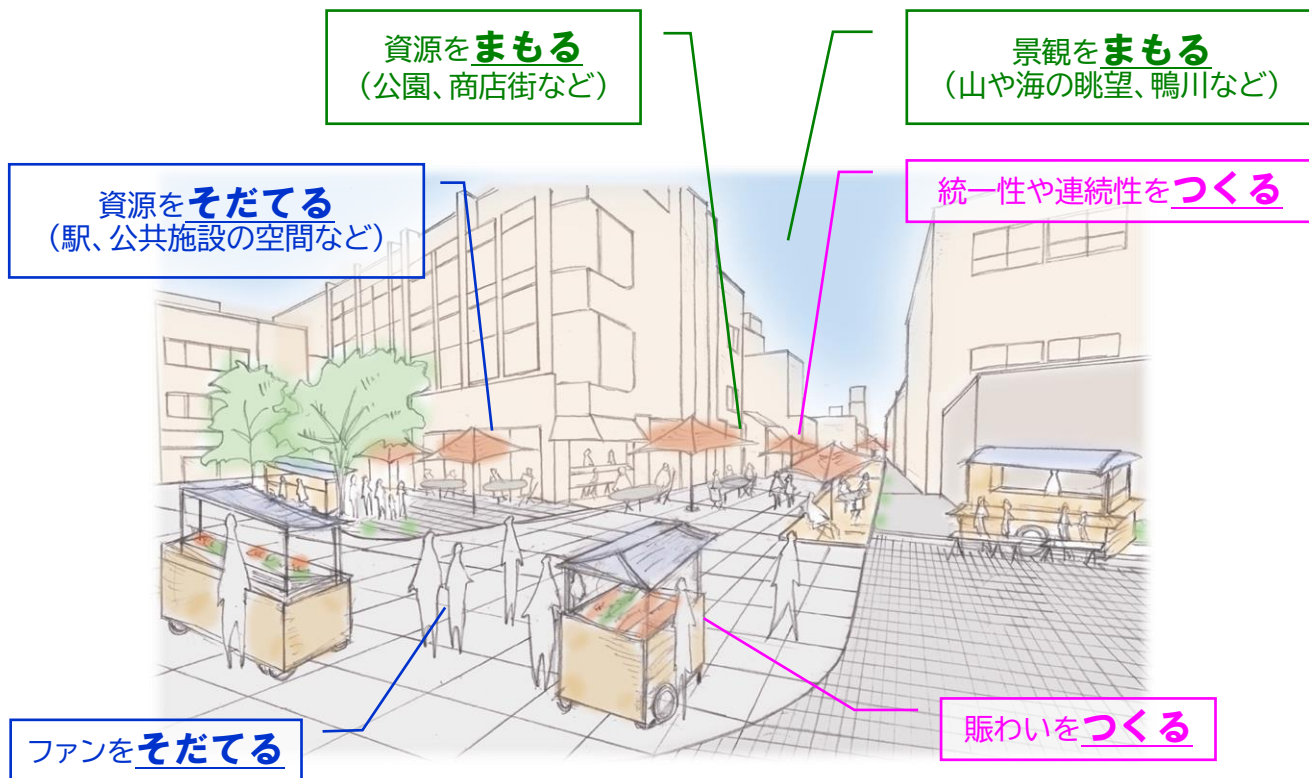
■水辺空間をまもる

▷ 周辺の街並みと調和した鴨川や坊田川の水辺空間を保全

そだてる

■エリアの資源をそだてる

▷ エリアの資源である「よつば小学校」などの学校教育施設などを空間のランドマークとして活用



【つくる・まもる・そだてる イメージ図】

魚津市空間デザイン指針（概要版）

令和4年（2022年）3月策定

発行：魚津市

魚津市秋迦堂一丁目10番1号 TEL0765-23-1026

編集：産業建設部都市計画課